ISSN 0387-1681

大津絵

第51号 2019・1

名著復刊

大津絵こう話

片桐修三 編著

定価3000円+税

巻頭カラーグラビアに代表的な大津絵を37点、巻末に「文献を基とした大津絵略年譜」を収録。

柳宗悦に師事し、大津絵研究の第一人者として知られた著者が晩年まで執筆に取り組み、大津絵の歴史を体系的にまとめた書。

鬼の念仏

中川法夫 著

定価1500円+税

平安・江戸・明治、そして現代の琵琶湖畔に生きる男女の愛の形。江戸時代の近江追分を舞台に、大津絵と豊臣残党狩りを題材にとった表題作「鬼の念仏」（滋賀県文学祭芸術文化祭賞受賞）をふくむ、小説4篇を収録。

江若鉄道の思い出

ありし日の沿線風景

大津市歴史博物館 編

定価1600円+税

琵琶湖の西岸、浜大津から今津までを結んでいた江若鉄道は、廃線となって45年余りがたった現在も懐かしむ声が絶えない。利用者の回想も交え、路線全駅の運行時の写真と解説文でよみがえる「昭和の鉄路の記憶」。

近江旅の本

近江東海道を歩く

八杉 淳 著

定価1800円+税

京三条大橋から逢坂の関を越え、大津―草津―石部―水口―土山の各宿場、そして鈴鹿峠まで。芭蕉が眠る義仲寺や草津宿本陣、旧和中散本舗など、近江東海道を歩いて楽しむガイドブック。

サンライズ出版

〒522-0004 彦根市鳥居本町655-1 TEL.0749-22-0627 FAX.0749-23-7720
ホームページ http://www.sunrise-pub.co.jp

大津絵第51号

発行日 二〇一九（平成三十一）年一月三十日

発行者 日本大津絵文化協会
会長 山下 正昭
●協会本部および事務局
〒五二〇―〇〇二三
大津市茶が崎一六―二一―五〇九
加藤 二三男 方
電話＆FAX ○七七―五一五―四四九七

編集者 加藤二三男・山下正昭・山口智津子

印刷 サンライズ出版株式会社
代表者 岩根 順子
彦根市鳥居本町六五五―一
電話 ○七四九―二二―○六二七

パリに大津絵がやって来る
企画展「大津絵―江戸時代の庶民絵画―17世紀の街道絵師からミロまで」について

フランス国立極東学院教授
びわ湖大津PR大使　クリストフ・マルケ

フランスでは二〇一八年七月から二〇一九年二月に日仏有効一六〇周年を記念して「ジャポニスム二〇一八」という、大々的に日本文化を紹介する一連のイベントが開催されています。

そのイベントの余韻が色濃く残る二〇一九年春四月から、パリ日本文化会館では、大津市歴史博物館との共催により、企画展「大津絵―江戸時代の庶民絵画―17世紀の街道絵師からミロまで」(OTSU-E.peintures populaires du Japon. Des imagiers du 17e siècle à Miro)を開催致します。

大津絵は、江戸初期から明治時代にかけて、東海道を往来する旅人の土産物として人気を集めました。初期は庶民の日常的な需要に応えた仏画が中心でしたが、次第に人間のおごりや愚かさへの風刺などを盛り込んだ戯画や教訓絵へと変容していきました。さらに時代が進むと、約一二〇あった画題が、縁結びの御利益があるとされる「藤娘」など十種類に絞られ、「大津絵十種」が庶民のお守りや験を担ぐキャラクターとして親しまれるようになりました。その味のあるキャラクターぶりに、江戸の浮世絵師たちも魅了され、江戸末期には、歌川国芳や河鍋暁斎などが浮世絵に大津絵の画題を取り入れたり、見立てたりして、数多くの作品を手掛け、そのユーモラスな精神を継承しています。

図1「為朝」大津絵、江戸期、E.セラ旧蔵（昭和10年代頃に日本で入手）

図2「鷹匠」大津絵、江戸期、E.セラ旧蔵（昭和10年代頃に日本で入手）

大津絵は、世界的に市民権を得ている浮世絵に比べると海外ではほとんど知られていません。しかし、実は、戦前から、フランスの民俗学者のルロワ＝グーランや、ドイツの建築家のタウト、スペインの彫刻家のセラ、そして、ミロ、ピカソなど一部のヨーロッパの著名な芸術家を魅了していたのです。それは、日本の民間信仰の偶像の大らかな造形化、諧謔の精神、自由奔放な線など、素朴でユニークな作風が、近現代の前衛表現に通じるものがあるからだと思われます。

今回の展覧会は、欧州で初の大規模な大津絵展であり、日本美術の重要で未知の側面を紹介する貴重な契機になるものと期待されます。そして、大津やびわ湖周辺の独特の文化をフランスで発信する機会ともなります。また、この大津絵展は、国際的な視点から江戸時代の庶民絵画を

紹介するのが特徴です。そして、大津絵と日本の近代美術との繋がりをも示すことを考えています。パリに渡航した浅井忠や小川千甕、そして梅原龍三郎や小絲源太郎といった多くの洋画家の巨匠たちが大津絵を自ら蒐集し、大津絵から何らかの形でインスピレーションを受けているからです。

今回の展覧会は二部で構成し、約一一〇点の作品の展示を予定しています。第一部では江戸時代の大津絵の名品をテーマ（仏画、鬼、美人、鳥獣など）ごとに展示し、第二部では大津絵の影響を受けた浮世絵や江戸末期から近代にかけての絵師が描いた肉筆画を展示します。さらに、ピカソの旧蔵品や、一九五〇年にバルセロナで開催された民芸展の大津絵を展示するコーナーを設けます。

図３彫刻家 E. セラ（左）と画家ミロ（右）、1950 年バルセロナ民芸展にて。ポスターは楠瀬日年の大津絵版画「竹に虎」を使用。ゴミス家蔵

作品は、大津市歴史博物館の所蔵品の他に、民芸運動の提唱者・柳宗悦が蒐集した東京の日本民藝館の大津絵コレクションや、笠間日動美術館、根津美術館、パリのギメ美術館に加え、フランス国立図書館、ピカソの旧蔵品などをお借りする予定です。欧州に渡った初公開の作品も多く展示されます。

この展覧会の関連イベントとして四月二十三日に、展覧会の監修を担当した筆者（マルケ）や大津市歴史博物館の横谷賢一郎氏などによる国際シンポジウムが開催されます。

記

会場：パリ日本文化会館（Maison de la culture du Japon à Paris）
　展示ホール
会期：二〇一九年四月二十三日～六月十五日
主催：パリ日本文化会館、大津市歴史博物館（共催）
協賛：丸紅株式会社
監修者：クリストフ・マルケ（フランス国立極東学院　学院長、びわ湖大津ＰＲ大使）、横谷賢一郎（大津市歴史博物館学芸員）
協力：大津市、日本民藝館、笠間日動美術館、根津美術館、フランス国立極東学院ほか
出品予定作品：約一一〇点